



こう見えても、ナンバーを取得し、公道を走ることができる。

やっぱり乗り物が

おもしろい 74

KTM
クロスボウ

気合い、入ってます。

オーストリアの二輪メーカー、KTMが初めてつくる四輪車が、クロスボウだ。KTMといえば、レーシングライクな高性能バイクで有名だが、クロスボウも、レースゲームの世界から飛び出してきたような軽量スーパーカーである。

ボディの中核は、F1マシンもかくなのカーボン製バスタブ型モノコック。イタリアのレーシングカー工房、ダラーラがデザインしている。

一方、ドアもフロントガラスもないフルオープンな2座コクピット後方に搭載されるエンジン／変速機は、アウディTT用の2ℓ4気筒ターボ+6段MT。量産車では不可能なスペシャルなシャシーに、量産車のパワユニットを組み合わせる。古くはバックヤード・ビルダー（裏庭製作所）と呼ばれたヨーロッパ流極少量生産メーカーの伝統手法だ。走るための装備しかない車体は、重さ790kg。軽ワゴンより軽いボディに240馬力だから、速いのは当然だ。全長はヴィッツやマーチより短いのに、全幅は1.9m以上ある。超ワイドトレッドがもたらすコーナリング性能は、レーシングカーそのものである。

いちばん驚いたのは品質の高さだ。剛性も工作も仕上げも、VWや



特徴的な外観（写真上）と、「走る」ための運転席（下）。価格850万円～。
☎ZOOM 046-295-2177
<http://www.x-bow.jp/>



アウディがつくついているといってもおかしくないほど、しっかりしている。レカロ・シートはカーボンパネルに薄いアンコを載せただけに見えるが、乗り心地は不思議と快適だ。シートは固定で、ペダルが付いた床のほうに前後にスライドする。そのへんの仕掛けも実に精度が高い。こういうもので、こんなに高い完成度を感じさせるクルマは初めてである。日本では量産不可能だが、ヨーロッパではこういうクルマも少量生産ならアリである。おかげで、若者のクルマ離れも日本ほどひどくない。一芸の異端児が生き残れるフトコロの深さがうらやましい。

下野康史=文 text by Yasushi Kabata 羽部知宏=撮影 photos by Tomohiro Have